

第9回香川県ダム検証に係る検討委員会 議事要旨

日時：平成27年3月23日（月）10:00～11:45

場所：香川県社会福祉総合センター7階 第1中会議室

【議事概要】

- ・事務局及び東かがわ市から五名ダム再開発の新規利水の必要性について説明を行った。
- ・事務局から綾川ダム群の近年の洪水と河道改修状況とダムの建設に伴う土砂の移動について説明を行った。

○主な意見

(1) 五名ダム再開発の新規利水の必要性について

学識経験者

- 開発水量を当初計画の 3,000m³/日から 2,000m³/日に変更することは理解できた。2,000m³/日の水源確保が必要であるという点はゆるがないようにして説明していくことが重要である。
- 有収水量、有収率等の専門用語については、分かりやすい説明を入れてほしい。
- 代替案の検討にあたっては、近年、下水の処理技術が高度化しているため、再生水の活用も視野に入れていくべきではないかと感じている。
- 人口が減少していく中で新規利水として 2,000m³/日が必要であることについて、渇水時におけるリスクを考え、不安定水源での確保水量が減少できること等、分かりやすい説明をしてほしい。
- 近年、ため池の維持管理ができずに機能を確保できないという状況もあると聞いている。香川用水ができた当時と現在でも状況が変化してきているため、それぞれの水源の供給量がどこまで信頼できるものか不安に思っている。

関係地方公共団体

- 地域戦略を検討していくうえで、ダムの位置付けはとても重要である。
- 五名ダムは老朽化が著しく、河川に対してとても規模が小さいものとなっている。

(2) 綾川ダム群の近年の洪水と河道改修状況とダムの建設に伴う土砂の移動について

学識経験者

- 土砂移動に関して、長柄ダム再開発及び田万ダムの流域が府中ダム上流の流域に占める割合を整理しているが、直接流入のない富川流域については控除して整理した方がよい。府中ダムの影響評価が難しいかもしれないが、府中ダム下流の河道についても影響を考慮しておく方がよい。
- 掘削土砂の移動先での環境影響や、掘削箇所における流量や水質の変化についても配慮していく必要がある。
- 土砂を利用する状況、その土砂が発生する状況も年々変わってきていると思われるため、土質試験等を実施し、土砂の性質を把握することでより掘削土砂の有効活用ができるのではないかと。
- 掘削土砂の移動先をフォローし、有効活用を行っている実績を蓄積していくことが重要で

ある。

- 香川県の河川は総じて伏流している河川が多く、他県の河川とは土砂移動の特性が大きく異なる。香川県特有の河道内の土砂移動特性をしっかりとおさえた上で、地域の住民に情報提供をしていくことに努めてほしい。
- 綾川の付近には学校があり、河川が子供たちの遊び場となっていることに危険を感じることもある。危険性の啓発も合わせてお願いしたい。

関係地方公共団体

- 綾坂橋の架け替えにより、河川の流れがよくなった。下流にはゲートボール場ができ、住民からも喜ばれている。